

酒井重工業 脱中国依存

部品調達、デュアルソース化

酒井重工業は道路建設機械に使用する部品の中国からの調達に関して、シングルソース（単一サプライヤーからの調達）を見直す。中国以外に、日本国内や東南アジア諸国からも同等の部品を調達できるようにして、デュアル（二重）ソース化を図る。現時点でシングルソース部品は10種類程度で、大半がプラスチック部品。2022年度中に実施する。



道路建設機械の部品調達網を強くする（工事現場で稼働する酒井重工業のローラー）

新型コロナウイルス感染症拡大によるロックダウン（都市封鎖）や米中政治対立、地政

学リスクの影響で、中国からの部品調達が突然途絶えるリスクが浮上している。デュアル

ソース化により脆弱性を改善し、サプライチェーン（供給網）や製品力を強化する。

シングルソース部品の大半がプラ部品なのは、部品成形に使う金型の技術レベルの問題もあるが、基本的には日本国内や他国からの調達より安価なことが理由だ。ただ、安価ではあってもシートやスティックレバーのように、それを取り付けなると最終製品として出荷できないものもあり、調達のトラブルは納期の遅れにつながる。

酒井重工は日本国内と米国、中国、インドネシアに工場を持つ。2022年3月期の拠点別売上高で、中国は前期比32・9%増の9億7300万円だった。外部顧客向けは景気低迷で減少したが、日本やインドネシアのグループ会社への部品輸出が伸びて内部売上高が拡大した。グループ全体の部品調達・供給拠点として中国工場の役割が増す一方、現地調達が途絶える万一の事態に備え、リスク分散を進める。

クが浮上する中、「デュアルソース化は二重調達となりコストは増えるが、やるしかない」と酒井一郎社長は話す。すでに代替部品の調達に関する調査を始めている。